

私学助成署名推進ニュース

全国私学助成をすすめる会

(事務局：全国私立学校教職員組合)

No.30 2020年11月17日(火)

新潟：すすめる会が今年も「学費ホットライン」を実施！ 昨年よりも多数の相談

にいがた私学助成すすめる会ニュース

子どもたちが学費を心配せず、学校で学べるように、私学の学費も無償に！

2020年11月17日

新潟県私学の公費助成をすすめる会

新潟市中央区弁天橋通 1-13-13

TEL 025-286-7600

新潟が毎年とりくんでいる「学費ホットライン」を今年も実施。神奈川を上回る相談件数となっています。

来年高校入試を控えた中学生保護者対象に学費ホットライン開設

昨年を上回る22件(昨年17件)の相談



学費助成制度や奨学金制度などを紹介した「あなたの学びを支えるパンフレット2020年度版」(私学の公費助成をすすめる会・私学教育を守る父母の会の共同発行)

「私学の公費助成をすすめる会」と「私学教育を守る父母の会」は十五日、来年度高校入試を控えた中学生の保護者を対象に学費に関する相談に応じる「学費ホットライン」を開設しました。

開設にあたっては、事前に県内中学校へ案内を送付しました。また、国・県の学費助成制度や奨学金制度など、私立高校学費の負担軽減につながる制度を紹介した「あなたの学びを支えるパンフレット2020年度版」(左記写真)を作成し、案内とあわせて学校へ送付しました。

当日は、中学校への案内や新潟日報に案内が事前掲載(下記右)されたこともあり、開設一〇分前から電話が鳴り始め、午前中だけで九件の相談がありました。午後からも電話は鳴り止まず、終了時間の午後五時までに、二十二件の相談が寄せられました。

相談では、私学を受験した場合の学費負担を心配するもので、学費負担を軽減する国や県の制度の内容を知りたいという相談

私学への希望諦めないで！

が大半を占めました。なかには、「コロナ禍の影響で来年三月で会社を閉めると言われた。子どもが希望する私学に行かせてやりたいがどうしたらいいか」「母子家庭で、双子の子が来年高校を受験する。二人とも私学になったら学費負担がたいへん」など、深刻な相談も。また、「夫婦で働いており、年収五九〇万円を超えるか超えないかの境目。学費への支援が大きく変わってしまうのはつらい」との声のように、「年収五九〇万円の崖」問題が保護者を苦しめている実態もあらためて浮き彫りになりました。

一日の相談を終えた相談者(教職員)は、学費助成制度の内容がまだ十分中学生保護者に伝わっていないこと、学費助成制度の大幅な拡充が求められることなどを痛感していました。

制度改善が認知されていないのは、新潟だけではない、ようです。各都道府県、中学生への周知を県に迫ると同時に、運動化していきましょう。

本来ならば行政が作成すべきものです

23 地域・文化 2020年(令和2年)11月17日(火曜日) (日刊) 新潟

私立高進学 諦めないで

新潟で学費支援制度紹介

私立高校の学費について相談に応じる電話相談会が15日、新潟市中央区で開かれた。新型コロナウイルスによる経済的負担、入学金や学費の支払いに不安を訴える電話もあり、相談者は県や市の支援制度を紹介した。

公立高と比べ、入学金などが高い私立高。家計の幅が狭まることになり、保護者や教員が「どうしたらいいか」と悩む。電話相談会では、学費助成制度や奨学金制度などを紹介した。相談者は、学費の負担を軽減する国や県の制度を知りたいという相談が多かった。

相談では、私学を受験した場合の学費負担を心配するもので、学費負担を軽減する国や県の制度の内容を知りたいという相談が多かった。

新潟日報で事前告知記事も(11月13日付)

私立高の学費相談 教職員ら電話対応

15日 「県私学の公費助成をすすめる会」にいがた私学教育を守る父母の会」は15日午前10時～午後5時、私立高校の学費について電話で相談を受け付ける「学費ホットライン」を開設する。県内私立高校の学費の状況や、公的な学費軽減制度の内容、手続き方法などについて、私立高校の教職員らが相談に応じる。無料だが、通話料がかかる。電話番号は025(286)7600。

学費ホットラインのとりくみの模様を伝える 11月17日付新潟日報記事

私学助成署名の数を力に、「年収590万円の崖」解消へ学費助成制度拡充を県に迫りましょう！